

令和5年度 学校経営方針

五所川原市立三好小学校
校長 渋谷 真

1 教育目標

- ・進んで学習する子
- ・思いやりのある子
- ・たくましい子

2 努力目標

- ・自分で考え、進んで表現する子になろう
- ・自分の行動に責任をもち、やさしい子になろう
- ・心も体も進んできたえる子になろう

3 めざす学校像

(子ども同士がつながる・教職員同士がつながる・教職員と保護者がつながる・学校と地域がつながる)

教職員・保護者・地域がつながり合い、(児童にとって)学んでよかった学校、(保護者にとって)学ばせてよかった、(地域の人々にとって)我が学校と感じられる地域の学校を創りたい。

[具体像]

- (1) 子どもにとって、**意欲的に学び活動する楽しい学校**
子どもたち同士がつながり合い、自他のよさに気付き、互いによさを発揮しながら根気強く学び生活し、よりよい人生を送ることができる児童が育つ学校
- (2) 教職員にとって、**児童が学び合う質の高い授業が展開される学校**
児童がよりよい人生を送ることができるように、生きる力がつく授業づくりに専門性やよさを発揮し合いながら、教職員同士がつながり、ともに成長する学校
- (3) 教職員・保護者・地域にとって、**教職員・保護者・地域がつながり合う学校**
児童のすこやかな成長のため、教職員、保護者、地域がつながり合い、共に力を合わせ子どもを育てる学校

4 学校経営の方針

学校は、次世代を担う子どもたちのためにある。学校と保護者や地域が子どものすこやかな成長の願いへの思いを共有し、変化の激しい社会に対応しながら、学校の教育目標や努力目標、学校目標(重点目標)が達成されるよう学校経営を推進する。

5 学校経営の重点

4の方針から重点を下記の3点とする。

(1) 確かな学力の育成

①授業デザイン22のポイント「GOLD22」をもとに主体的・対話的で深い学びを実現させるために常に授業改善を心がける。

(GOLD22=五所川原ラーニングデザイン22)

②「授業改善ルート7」を意識し、授業実践に結び付ける。

③上記①②を支えるための学習習慣・生活習慣の徹底を図る。(何をどうするか)

(2) 心の教育の充実

①**すべての教育活動の基礎となる、子どもたちがつながり合う望ましい学級経営、望ましい集団づくりの充実**

②「教職員一人一人が全児童の担任」と考え、教職員のコミュニケーションにより、学年間のつながりを大切にした協働的な指導体制による生徒指導の充実

(3) 幼保小中と家庭・地域とのつながりを意識した教育の充実

①五所川原第一中学校区内とつながり、連携した教育活動(小中連携の推進)

②教職員・保護者・地域がつながり、地域に根ざした教育活動(PTA活動の推進)

6 教職員チームとしての目的（^{そつたくどうじ}啐啄同時・率先垂範）

教職員同士がつながり、そして子どもたちともつながり、夢や志をもたせ、

- 努力し身につけた力を用い人の役に立つ生き方をする
- 私は周囲の人に貢献できる

ということを実感させ将来にわたり、よりよい、幸せな人生が送られるようにする。

7 本年度の学校目標（重点目標）

つながりを深め、互いの心を通わせながら進んで学び合う子の育成

【重点施策】

（1）知：「自分で考え、進んで表現する子」の育成

- ① 前時の学習とつなげ、進んで問いをもち、学び合い解決する授業づくり
 - ・「GOLD 2 2」を意識して、主体的・対話的で深い学びの実現
 - ・めあてとまとめの整合性
- ② 伝え合い、つながりの中で学び合う場の設定
 - ・ペアやグループ等の話し合いによる学び合い
 - ・毎時間の振り返りを大事にし、次につながる授業を意図的に組み立てる

（2）徳：「自分の行動に責任をもち、やさしい子」の育成

- ① 助け合って取り組む「係活動」「当番活動」「委員会活動」「縦割り活動」の充実と家庭での「お手伝い」の継続 → 『自己有用感』を育成し自尊感情を高める
→ 人の役に立つ生き方、周りの人への貢献
- ② 学級づくり 10 か条による望ましい学級経営と集団作り

個を生かす学級づくり 10 か条

- ① 子ども一人一人にとって学級が居心地の良い場であること。
- ② 子ども一人一人の個性や願いを大切にすること。
- ③ だれにも出番を与え、だれもがリーダーになれる場であること。
- ④ 自由で多様な考え方を大切にし、活発な発言ができる場であること。
- ⑤ 間違いやつまずきを大切にし、そこから新しいものを生み出す場。
- ⑥ 新しいこと（もの）を創り出し、工夫していく喜びを味わえる場。
- ⑦ つながりを大切にし、お互いに協力して支え合う場であること。
- ⑧ 自分には厳しく、相手には思いやりをもって生活する場であること。
- ⑨ どの子の人権も尊重し、よさ（可能性）を引き出せる場であること。
- ⑩ 集団も個人もひとり立ちできることを目指す場であること。

③ 望ましい人間関係作り

- ・子どもたちとつくる学級目標（学級がつながる）
- ・ふわふわ言葉とさんや君（仲間同士がつながる）
- ・話し合い活動の充実（会話がつながる）
- ・よいところを認め合う時間の確保（毎時間の振り返り）

（3）体：「心も体も進んできたえる子」の育成

- ① 基本的な生活習慣と自学習習慣の徹底
 - ・しっかり目で聞き目を見て話す（ゲーペタピンの姿勢）
 - ・あいさつ返事ありがとう（相手とつながる）
 - ・早寝早起き朝ご飯（健康をつなぐ）
 - ・生活と学習習慣の確立（授業とつながる一人勉強）
 - ・すきま読書と家庭読書（時間をつなげる）
- ② めあてを決めて取り組む体力づくり → 青空タイム（マラソン・なわとび等）

8 具体的な子ども像（特別の教科 道徳の重点内容項目）

- 「み」んなであいさつ返事ありがとう → 礼儀・感謝
- 「よ」く人の役に立つ喜び → 勤労、公共の精神
- 「し」っかり目で聞き目を見て話す → 親切、思いやり
- 「よ」いところ → 個性の伸長
- 「い」のち大切に → 生命の尊さ
- 「こ」つこつ努力 → 希望と勇気、努力と強い意志